

# 理事長所信

理事長 大島 隆一郎

## 【基本方針】

### 1. はじめに

1945年8月15日の終戦から、日本国民は焦土と化した我が国を復興させようと高い志に燃え、一丸となり突き進みました。そして、1960年～1970年代の高度成長期を経た1980年代、日本は「ジャパン・アズ・ナンバーワン」と呼ばれ、世界に冠たる先進国に成長しました。世界各国が日本の力に迫り着こうとしている時、日本国民は皆自信と誇り、そして生きるエネルギーにみなぎっていました。このような近代の流れの中で、多くの国民には中流意識が広がり、やがて一億総中流社会が実現しました。しかし、1991年のソビエト連邦解体に始まる東側陣営の事実上の崩壊から資本主義と社会主義の二極対立は終わりを告げ、新自由主義が世界に広がることになりました。このようなグローバル化が市場経済を国際化し、国際貿易を活性化してきた反面、先進国で製造される製品が価格競争で敗北。また、その製造原価を下げるために非正規雇用の拡大や賃金の低下を招き、世界規模での労働力の価格競争による経済格差が拡大したのです。日本もその中にいました。いくら働いても受け取れる賃金はごくわずかで、生活保護を受けることと大差のないワーキングプアが増大し、現状として、かつて世界のトップクラスを誇った日本人一人当たりの所得は年々減少を続け、世界で20番前後まで落ち込みを見せています。

世界情勢の変化の中、我が国は産業経済の中核監視機能、情報発信機能、文化的創造活動等の東京一極集中を政策とする地域構造を創りました。その結果、地方は農業、製造業と建設業という手足の機能を担うこととなったのです。高度成長期には地方も成長しましたが、規格大量生産時代の終焉により地方のなすべきことが格段に減少し、中央と地方には、格差が生じたのです。そして良い大学に入れば、一流企業に就職ができ、年功序列と終身雇用という安心が待っていた「みんな一緒」の時代から、個人がそれぞれの価値観で、独自の幸せを追求する「みんな一人」の時代へとシフトしています。それによりルールを失った個人が行き先を決められず不安に駆られ、希望と光が見えない漠然とした閉塞感が社会全体に蔓延した結果、目を覆いたくなるような痛ましいニュースが毎日のように報道される世の中になってしまいました。

我が地域上越も格差社会の中から抜け出すことはなく、ここに住まう多くの人々が、そして多くの企業が漠然とした危機感抱いているのではないのでしょうか。地域が元気であるために、我々一人ひとりがJAYCEEとして、何事にもひるまず、自発的に取り組むのです。そして地域に暮らす人々と真剣に向き合い、上越の将来像を描き、明るい豊かな社

会に向かって実践して行かなければなりません。

## 2. つなげる想いとつながる力

我々は日々、試行錯誤の中で正解ではなく自分自身と関わる人が納得をする答えを見出し、それを判断の基準としています。大切なことは、まず行動してみること。そして、必要なところはスピーディーに修正するほうが成果につながりやすいと考えています。そのためには、失敗を恐れてはいけません。また、多くの問題には「つなげる」ことで解決ができるものがたくさんあると考えます。発想を転換して、今までつながっていなかったものをつなげることで事業を営む社会起業家たちが、どんどん現れてきています。

あらゆる地域社会の問題解決に、NPOや企業、そして我々青年会議所など姿かたちは異なりますが、色々な団体が、様々なかたちで「つながる」ことで大きな地域の力となり、その役割が機能することによってコミュニティにおけるコミュニケーションの質が良いスパイラルを起こしていくでしょう。本年度は、それぞれが責任を自覚し、英知と勇気と情熱を持ち「つながる」ことで、この地域が真に豊かなまち上越となるために邁進して参ります。

### 【次世代JAYCEEの育成 ～地域のリーダーとしての使命～】

今後数年で、上越青年会議所メンバーの大半が入れ替わるという現実を踏まえ、次代を担うJAYCEEの育成が必要とされています。

JCに入会するきっかけは様々ですが、地域のリーダーとしての使命感を持ち、仲間と議論を交わし、様々な意見や情報を受け止めることが必要です。とにかく動いて、そのプロセスや結果から学びと気づきを得る。このように率先して企業的な立場に囚われず環境や社会福祉をはじめとする貢献活動していくことで己の可能性を見いだせるよう導いて行きます。若くして地域企業の要職についていたメンバーは、もっと視野を広げて行くことが肝要であると言えます。我々は、入会当時から今日に至るまで、面倒見の良い先輩諸兄から様々なことを教えて頂いています。また、その関係が世代を越え、地域を越え、つながって行き、その輪は大きなものとなるのです。そのために今一度、自分自身の行動を厳しく見定めて頂き、己の成長の機会として様々な人とコミュニケーションをとり、自ら情報を取得・編集できるような、意欲溢れる次世代JAYCEEを育成して参ります。

### 【暮らしに根付く地域コミュニティ～こころの拠り所～】

上越青年会議所が46年の歴史を経た今、我々は改めてこの地域に暮らす生活者として地域の魅力について考えなくてはなりません。

成熟社会で価値観が多様化する中で「いつかは住んでみたい」「ここに住み続けたい」と思ってもらえるような「住みたい価値」を向上させるために、地域の魅力を活かした「暮らしブランド」の確立を目指していきます。価値の向上には、地域に住まう方々にとって

こころの拠り所となるような心地よい場の創出が必要です。

地域の活性化というと、とにかく押し出しが中心になる傾向がありますが、地域の「ウチ」と「ソト」が平行で進んで行くことが重要と考えます。「ウチ」である生活者のコミュニケーションと誇りが「ソト」への魅力発進力につながり、「ソト」からの良い評判や評価が「ウチ」の地域の満足度や地域愛の向上につながるような強い相関関係があることを前提に地域の揺るぎない精神的な絆、強い信頼関係の結果として生み出されるであろうこの地域ならではの魅力を創造していくこと。そんな暮らしブランドの確立に挑戦して参ります。

#### 【歴史と文化から紡ぐまちづくり～伝統ある義の都～】

上越には上杉謙信と春日山城址、小川未明や城下町など、様々な偉人や歴史的な資源が数多く存在しています。この地域の歴史的資源は、この地域の生い立ちでもあります。上越青年会議所もそのような歴史をもとにまちづくりを展開しています。祖先より受け継いだ伝統と文化をしっかりと咀嚼し、この先のまちづくりへと継承していかななくてはなりません。また、その根底にある地域としての精神性や美意識を誇りとして醸成することで、この地域の文化が息づいていくものと考えます。

歴史がつないでいる地域との縁もあります。青年会議所同士の交流が地域と地域の交流につながり、互いに効果的な結果をもたらすことが出来るようにその縁をしっかりと継承して行きます。2014年に開府400年を迎える城下町高田、港町として栄えた直江津など、義の心溢れ高い精神性が息づくまちとして、地域特有の豊富なソフト・パワーを活用した地域活性化と交流人口の増加を焦点に、積極的な運動を展開して参ります。

#### 【地域産業や食文化からつなげる地域おこし～創意工夫と団結～】

地域の自立と活性化の必要性が増大している現在、地域資源を見直し、地域の総力を挙げた新たな産業化を目指し全国的にも活発な動きが見られています。その動きは、ブームとしてメディアに取り上げられていますが、一過性ではなくこの地域を心から好きだと言える地域人による地道な積み重ねから、地域のブランドを根付かせなければなりません。地方分権、市町村合併という大きな変化を経て地域の総力で未来を切り開くために、そこに暮らす人を含めた地域の資源を結集し、地域に「夢」と「勇気」を創り上げていかななくてはなりません。この上越は、2014年に北陸新幹線の開通を控えています。開通による地域機能や交流人口の大きな変化を予測しながら、地域色に溢れる食文化の創造や農業をはじめとする産業の可能性について探究とチャレンジを進めて参ります。

成熟社会を迎えた今、この地域の豊かな歴史や文化を背景として受け継がれてきた食や産業から暮らしを考え、様々な団体、組織と連携し、あらゆる可能性を地域の活性化につなげていくために行動して参ります。

#### 【教育をまちづくりの観点からつなげる～地域総がかりの教育連携～】

今日の子どもの教育に関わる諸問題の背景には核家族化、少子化、社会全体の規範の低下など、親と子を取り巻く環境の変化があります。それらの環境の変化は激しく、一人ひとりの価値観が多様化する社会とも言われていますが、その様な社会では複眼的な発想が必要とされています。選択肢から1つの正解を選択するような、万人に共通する唯一の正解は実社会ではほとんどありません。試行錯誤の中で自分自身が納得できるものを正解と導き出すことや、さまざまな情報を収集し、それを編集・読解するリテラシー能力を向上させて行きます。この地域の未来を担う子どもたちがやがて自立できる大人となるために、地域のコミュニティが担う責任として、地域全体が協力をして子どもたちの生きる力を育んでいけるように努めて参ります。そのために、様々な関係機関、団体や企業と連携の可能性を探り、地域総がかりで子どもたちを育ていけるような地域を目指して行きます。人材輩出を目的として教育を考えたとき、その発展的継続が、まちづくりとしての上越につながると確信し、生きる力を育て参ります。

#### 【地域の発展に貢献できる人材の育成～人材開発基地上越～】

気が付けば多くの分野で諸外国から日本の企業が追い抜かれていたと言われています。そこには人材の格差が起因していると考えられます。近年台頭してきた国には、語学力に加えてリーダーシップのある学生や社員が多く存在しているのです。このことを地域として考えると、地域力は人口や企業の数ではなく人材力と人材の数であると言えるのではないのでしょうか。今現在の状況に対して不平を言うばかりでなく、積極的に自らが企業や地域での財産となれるよう使命感を持って判断や行動ができるように導いて行かなくてはなりません。また、未来の人材力を担う子どもたちのために親に焦点を当て、親としての成長の光を地域に照らし続けていくことによって、社会をより良い方向に変えて行きます。

上越青年会議所に所属しているメンバーの意義として、どのような場でもリーダーの自覚を持ち、地域や人を牽引していくための判断と行動ができる資質を持つことが求められています。地域の一人ひとりの可能性を引き出し、個性を育むこと、その様な次代に向けた人材の開発を通して、明るい豊かな社会に貢献する「人材育成」を進めて参ります。

#### 【地域とJCをつなげる～地域との信頼関係～】

上越青年会議所が地域で運動を展開していく際、新たなことに向かっていこうという意気込みだけで良い結果が出るとは限りません。その地域の背景となる過去から現在までの背景を知り、はじめて目的意識が生まれてくると考えます。そのためには地域の方に教えて頂くこと、伺うこと、見せて頂くこと、視野を広げることを欠かすことは出来ません。様々なものを見たり、聞いたり、感じたり、多くの情報を選択肢として得続けることが重要なのです。また、視野を広げるという意味では、貴重な機会である委員会や各種事業は勿論のこと、出向や諸大会に対して積極的に学びに出て頂くように導いていきます。主体的に取り組むことを回避するために様々な理由をつけ、積極的に取り組もうとしない姿勢

には全く価値がありません。少し無理をして地域と一緒に前進しましょう。

地域との信頼関係は、気遣い、誠実な態度、公平な判断と約束の下に成り立っていると考えます。地域の未来について真剣に考えている我々は、地域の信頼と負託を頂きながら、より一層の貢献ができる運動を展開して参ります。

### 3. 社団法人上越青年会議所をつなげていくために

J Cの利点は、今、必要とされる問題を見出し、即座に解決に向けて行動ができる力だと考えています。問題抽出から運動展開までを率先的に行動していく力を持っているのは上越青年会議所です。様々な価値観をぶつけ合い、切磋琢磨することで、問題解決に向かって進んでいけるのです。そのためには多くの力が集う場が必要であり、世代交代も重要であります。多極化、複雑化した社会問題には、メンバーの多様性を持って進むより他にありません。

今年度入会したメンバーが次の年度を迎える時、新しく入会してくれたメンバーを心から歓迎し、5年後の上越青年会議所の可能性を感じることに繋がって行きます。

メンバーの数だけ、つながりと可能性が増える。メンバー一丸となって地域の可能性を増やして参りましょう。

### 4. むすびに

人が何かを納得するためには、対象となる事象に関心があるかどうかを起点とし、そこに「問題意識」を持って考えられるかどうかであり、問題意識を持って深く考えた結果、真の問題が定義できるのです。真の問題を定義して、初めて問題解決のアプローチが可能になります。また、同様に重要なことは、「当事者意識」で、当事者意識の無い人の発言は軽く、自分を問題領域の外に置いているので常に理想論になっていることが多いと言えます。一見些細と思われる問題でも当事者意識を持って捉えてみると、本質が見え、詳細も理解できるのです。そのように問題を定義したならば、真剣に問題と原因を追及することができ、有効な手法や解決策を生み出すことができるのです。

我々 J A Y C E E は、青年経済人として、この地域に生きる者として、本質を突いた活動を地域のムーブメントにして行くため、理想に向かって進みます。英知と勇気と情熱を持ち、明日のために今日の犠牲を払うという決心覚悟のもと、したたかに行動し続けていくことで、この地域を明るい未来へと導くことができると信じ、行動して参ります。

## 【活動の指針】

- 1、「創立45周年グランドデザイン・アクションプラン」を軸として我々の運動によって地域の活性化に良いスパイラルを創り出します。
- 2、地域のリーダーとしての自覚と知識の向上のために、情報提供と情報共有を図ります。

- 3、チャンスを見逃さず、多くの情報を取得し続け、真に豊かなまち上越に向かって運動を展開していきます。
- 4、5年後の社団法人上越青年会議所を担うメンバーの育成に努めます。
- 5、発展的継続を目指し、LOMを挙げ、組織として会員拡大に努めます。
- 6、会員のみならず、地域との交流を深め、相互理解と見聞を深化させます。